

= 支部だより = 北信越地区

長野地区学習会のご案内

■行事名：長野地区 学習会

■話 題：地球の雪氷圏は温暖化の兆しを示す？

■内 容：地球の雪氷圏である、南極・グリーンランドの氷床、山岳氷河、北極海や南極海の海氷、ユーラシア大陸・北米大陸の季節積雪、凍土などが、最近の20年ほどの気温の上昇傾向によって減少・後退している兆しが観測されている。とくに衛星からモニタリングする雪氷圏でも、北極海の海氷の減少が著しい。

例えば、北極海における多年生海氷の急速な減少をしているといわれる。1978年から2000年の過去22年間の衛星マイクロ波データから、北極海を覆う多年性海氷の面積は、10年間で9%減少していることが明らかになった。この割合で減少していくと、21世紀中には、多年性の海氷が北極海から消滅し北極域の気候システムが劇的な変化を起こす恐れがある。また、1990年代に入って、二年性の海氷が増加しており、北極海全域の海氷の厚さが減少していることから推定することができる。

また、NOAA衛星データから得られる海氷表面の温度は10年間に1.2Kの上昇を示し、多年生海氷の面積と負の相関をもつ。海氷表面の温度の上昇は、海氷が融解する期間が長くなり、近年の海氷の量を減少させる要因にもなっている。しかし、北極海氷減少は地球温暖化によるものだろうか。

雪氷圏に起こっている温暖化の兆しとその影響と、雪氷圏から読み取ることが出来る地球環境変動史を含めて話題を提供する。

■講 師：西尾文彦

千葉大学環境リモートセンシング研究センター 教授

■日 時：平成15(2003)年9月24日(水) 16:00～17:00

■場 所：信州大学理学部8番講義室

■問い合わせ先：信州大学理学部 鈴木啓助 0263-37-2561

kei@gipac.shinshu-u.ac.jp